

小さな森の演奏会

新内ホールコンサート

昭和49年に児童数の減少から閉校になった新内小学校。
平成4年に新内ホールとして生まれ変わり、コンサートや映画の上映会が行われています。
新内ホールコンサートは6月21日の開催で第100回を迎えました。



現在のコンサートホール

小学校からアトリエ、そしてコンサートホールへ
新内ホールコンサート開催のきっかけは、現北海道教育大学岩見沢校教授（当時准教授）であり、北海道芸術学会会長、作曲家でもある南聡氏が作曲のためのアトリエとして使用したいと役場に持ちかけたことでした。
そして、その中でコンサートもできたらと話が広がり、かつての教室をコンサートホールへと作り上げたのでした。
元々は職員室と特別教室として使われていましたが、壁を無くして繋げ、音響の関係から天井も取り払われました。正面の窓も自然を感じられるようにと後から作られました。



パンフレットには、コンサートの内容、出演者の紹介などが記載されています。



廊下には第1回の新内ホールオープニングコンサートからのパンフレットがずらりと並んでいます。

新内ホールの魅力とは？



新内ホールは林に囲まれており、ホールの窓からは木々が顔を覗かせています。夜に行われるコンサートでは、木々がライトアップされ、昼間とは違った雰囲気も楽しむことができます。

また、周りには牧場しかないため、牛の鳴き声以外聞こえない静かな環境のため、音楽に浸ることができます。また、雨の時は雨音もあいまって不思議な雰囲気を作られます。

木造の校舎である新内小学校をそのまま利用したコンサートホールは木で作られた楽器にこっちは同調しやすく、暖かい響きになるため演奏者もすごく演奏しやすい環境となっています。
また、古い校舎の雰囲気が残っているため、懐かしさを感じることができ、小学生に戻ったような気分も感じられます。



観客は多くても30人〜40人の家庭的な雰囲気で行うことができることも魅力の一つです。
小さなホールだから演奏者との距離が近く、演奏者と観客が互いにコミュニケーションをとりながら演奏会を行うことができます。
演奏者と観客との距離は2メートルもなく、臨場感が感じられます。



新内小学校の名残も

新内ホールには、今も小学校として使われていた時の名残が残っています。当時の時間割や児童の作品、校歌や目標なども残されており、小学校だった頃の雰囲気を感ぜさせます。

